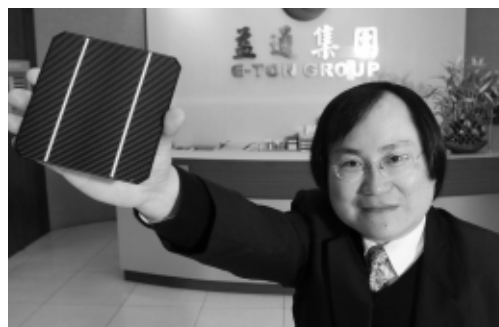


## 品質重視、太陽電池産業をリードする益通光能

前回No.151号の産業欄でご紹介したように、益通光能科技 (E-Ton Solar) は台湾の太陽電池産業における第二位の急成長する太陽電池メーカーである。同社はマーケティングでも独自の戦略により世界市場を切り開いている。

今回は、日本の大ファンだと自負する蔡進耀総経理から同社の戦略および太陽電池産業に対する考えについてお話いただいた。



益通光能科技 (股) 有限公司  
蔡進耀 総経理

太陽電池産業に対して最近特にお感じたことをお教えてください。

イギリスのロンドン市庁舎が新築されたのですが、今回、これについては当社の太陽電池が採用されました。イギリスだとBPソーラーがいるにもかかわらず当社の製品が採用されたというのは実に誇らしいことです。僕もロンドンの開幕式典に参加してきました。

実は太陽電池の裁断というのは非常に難易度が高く、通常、太陽電池パネルの形状は四角形なのですが、新しい市庁舎の屋根は円錐形になっています。この形状を実現するのは非常に難しかったです。(編集注：台湾投資通信 No.151 P4 御参照)

今回の欧州出張で、「太陽光発電は欧州では投資利回り商品になっているのだ」ということを強く感じましたね。太陽電池に幾らを投資すると、発電電力量がいくらで、そのROIが幾ら？という具合です。ROIを気にするからには、資金調達面で銀行が融資可能な確かなものでないといけません。この太陽電池というのはこれまでの電気製品とは異なるライフサイクルな訳ですね。一定のROIをあげるためには

20年間の保証に耐えられる技術力が必要で、当社の製品が評価されているのは、この確かな技術力のおかげだと思います。

御社は太陽電池産業でどのような戦略を取られているのですか？

益通では太陽電池産業へ単に参入するのではなく、複数の太陽電池技術への投資を進める一方で、バリューチェーンの垂直統合を進めています。

まず、技術の部分については、益通と宇通です。益通光能は単結晶太陽電池を手がけ、現在の変換効率は約17%に達成しているが、今年中には恐らく20%に達する見込みです。その一方で、宇通光能は薄膜シリコン型太陽電池に投資をします。この領域では、結晶型と比較して非常に投資額が大きいため、大きな資金力を必要とします。一つの生産ラインに約NT60億元以上を必要とするので、全てを一社で賄うのはリスクが大きいと感じました。このため、光寶(LITEON)と漢民(Hermes)などとジョイントベンチャー会社の形になりました。更に、彼らの持つjunction-boxなどの薄膜電池に必要とす

## 台湾トップ企業

る部品技術を融合させることで、更にコスト削減が可能になります。

宇通の新工場は、今年の9月には設備の据付を行なう予定です。薄膜太陽電池の技術についてはOerlikonからターンキーで技術の供与を受ける予定です。現在、宇通が開発した変換効率は8.7%で、当初の生産能力は60MWの予定です。

垂直統合については川上、川下双方に手を伸ばしています。川下については、まずは、裕隆グループ（編注：台湾で日産ブランドを展開する自動車大手メーカー）と宏碁（編注：欧州ではノートブックのトップブランドとなった台湾大手PCメーカー）そして、サンルーフ大手の信昌機械と共同で生耀光電、Gloria Solar、を設立し、自動車における太陽電池のアプリケーション開発を行っていきます。更に、このGloria Solarは、2007年に米国第1位の太陽電池モジュールメーカーであるSpire Corporationとの合併によるGloria Spireという太陽光発電システム会社を設立しました。自動車市場としても、太陽光発電の市場としても世界最大の市場であるアメリカは、非常に大きなチャンスを秘めていると思います。

川上方向の統合については、アメリカのウェハメーカーであるADEMA社を買収しましたし、資本関係こそないですが、日本のエムセテックなどと非常に強力な協力関係にあり、長期契約を結んでいます。

最後に台湾の太陽電池産業に対する思いについてお話ください。

太陽電池産業はエネルギー産業に属し、石油と同

じく戦略的なものです。また、市場の大きい地場の企業が有利になるわけです。例えば、風力産業であれば、デンマークの風力産業が強くなっていったのと同様です。

この意味で台湾の太陽発電市場そのものは小さく、台湾は不利な位置にあります。そこで、台湾は自ら需要を作り出していないといけません。もしも、ノートPC一台に一枚の太陽電池が搭載されたいかがでしょう。世界のノートPCの殆どは台湾企業が作っています。それだけで巨大な市場が創造されることになりますよね。バーチャルな内需市場です。こういう発想の転換が重要なんですよ。

僕がBIPV（編注：Building Integrated Photovoltaic）を推すのもこういう理由からです。建築規制などでBIPVの障害になっている部分もあるので、これを緩和するなど政府がBIPVを推進する方策も多々あります。僕も様々なアイデアを色々なところで発信はしています。こういうところで台湾にも内需市場を作り出していけば、我々の可能性は更に広がります。

ありがとうございました。